

(注) 本月報は、主に現地紙における報道を当館限りで日本語でまとめたものです。記事の中の客観事実は日本政府や現地政府の公式見解と異なる場合がありますが、当館では文責は負いかねますのでご了承ください。

ベナン月報(2021年3月)

【内政】

- 3日、大統領選の候補者登録を行い非適格となったレキヤ・マドゥグ元法務大臣は、ポルト・ノボ市で行っていた政治集会の直後に、大統領選プロセスを混乱させるテロ行為の首謀者であるとの容疑で逮捕された。(4日、La Nation 紙)
- 25日、バトコ前最高裁判所長官の後任として、ヴィクトール・アドス氏が最高裁判所長官に就任した。同氏は10日の閣議により任命された。(26日、La Nation 紙)
- 26日、大統領選の選挙キャンペーンが始まった。4月9日まで続く。(26日、La Nation 紙)
- 26日、タロンータラタ陣営は、選挙キャンペーン期間が始まったのに際し、決起集会をコトヌ市で開催し、全国訪問を開始した。4月9日までベナン全県を訪問する予定である。(29日、La Nation 紙)

【治安・保健】

- 10日夜、COVAXファシリティの枠組みを通じて、14万4千回分の新型コロナウイルス感染症ワクチン(アストラゼネカ社製)がコトヌ国際空港に到着し、ウンパティン保健大臣が受け取った。(11日、La Nation 紙)
- 20日、ペン駐ベナン中国大使とアベノンシ外務・協力大臣は、新型コロナウイルスの中国製ワクチン供与にかかる合意書の署名を行い、21日、シノバック製新型コロナウイルスワクチン(コロナバック)20万3,000回分がコトヌ国際空港に到着した。(22日、23日、La Nation 紙)
- 29日、新型コロナウイルスのワクチン接種キャンペーンが始まり、ウンパティン保健大臣が接種を受けた。(30日、La Nation 紙)

【経済】

- 9日、ワダニ経済・財務大臣は、信用格付け会社ムーディーズによるベナンの評価が、「B2ポジティブ」から「B1安定的」に引き上げられたことを公表した。ベナンは新型コロナウイルスの発生以降アフリカの国で格付けが引き上げられた最初の国となる。(11日、Le Matinal 紙)

【文化・その他】

- 2021年世界幸福度調査の報告が公表され、ベナンは世界99位に位置づけられた(日本は56位)。(25日、L'Économiste 紙)

※下記内容は、La Nation 紙、Le Matinal 紙、L'Événement Précis 紙、L'Économiste 紙および Le Matin Libre 紙の記事を元に記載したものです。

【内政】

- ・ エコノミスト・インテリジェンス・ユニットが発表した2020年民主主義指数によれば、ベナンはアフリカ大陸の中で19位に位置づけられた(前回調査時より3位後退した)。(2日、La Nation 紙)
- ・ 3日、大統領選の候補者登録を行い非適格となったレキヤ・マドゥグ元法務大臣は、ポルト・ノボ市で行っていた政治集会の直後に、大統領選プロセスを混乱させるテロ行為の首謀者であるとの容疑で逮捕された。(4日、La Nation 紙)
- ・ アフロバロメーターの最新の調査により、警察による賄賂要求が減ったと感じるベナン人が61%にのぼることが明らかになった。(18日、La Nation 紙)
- ・ 17日、コトヌ市選出の議員らは、国際会議場に結集し、大統領選挙においてタロンータラ候補を支援することを確認した。(19日、La Nation 紙)
- ・ 19日、10年間の任期を勤めたウスマン・バトコ最高裁判所長官の退官式が行われた。(22日、La Nation 紙)
- ・ 20日、コウエーアゴサ陣営は、アラダ市において決起集会を開催し、現政権を打倒することを宣言した。(22日、La Nation 紙)
- ・ 23日、西アフリカ諸国経済共同体(ECOWAS)の選挙視察専門家10名がベナンに到着した。この10名は、投票日当日には90名配置されると見込まれるECOWAS選挙視察団の第一陣で、ベナン滞在は25日間の予定で、全国各地に配置される。(24日、La Nation 紙)
- ・ 25日、バトコ前最高裁判所長官の後任として、ヴィクトール・アドス氏が最高裁判所長官に就任した。同氏は10日の閣議により任命された。(26日、La Nation 紙)
- ・ 26日、大統領選の選挙キャンペーンが始まった。4月9日まで続く。(26日、La Nation 紙)
- ・ 26日、タロンータラ陣営は、選挙キャンペーン期間が始まったのに際し、決起集会をコトヌ市で開催し、全国訪問を開始した。4月9日までベナン全県を訪問する予定である。(29日、La Nation 紙)
- ・ 27日、コウエーアゴサ陣営は、パラク市で選挙キャンペーンを開始した。その後カンディ(Kandi)、バニコアラ(Banikoara)、クアンデ(Kouande)、ナティタング(Natitingou)、ジユグ(Djougou)の北部各市を巡回する。(29日、La Nation 紙)

【外政】

- ・ 17日、マホニー駐ベナン米国大使は、モレッティ高等視聴覚通信局長と会談し、メディア保護と報道の自由の重要性について協議した。(19日、La Nation 紙)

【治安・保健】

- ・ ベナン北部で髄膜炎が発生し、タンギエタ市で約10名の死者が確認された。(5日、Le Matin Libre 紙)

- ・ 4日、ペン駐ベナン中国大使は、新型コロナウイルス対策の一環で、保健省に対し、換気装置210台、酸素吸入器60台、マスク15,000枚を提供した。(8日、Le Matinal 紙)
- ・ 8～12日、コトヌ市において、コフィー・アナン国際平和維持訓練センターの主催で、ギニア湾の安全化を目的に海洋犯罪及び法的訴追に関する研修が関係者向けに開催された。(10日、La Nation 紙)
- ・ 10日夜、COVAXファシリティの枠組みを通じて、14万4千回分の新型コロナウイルス感染症ワクチン(アストラゼネカ社製)がコトヌ国際空港に到着し、ウンパティン保健大臣が受け取った。(11日、La Nation 紙)
- ・ 16日、アボメ・カラヴィ市ゴドメ地区のジコ交差点において、大型トラックが横転する事故が発生し、2名の重傷者を出した。(17日、Le Matinal 紙)
- ・ 20日、ペン駐ベナン中国大使とアベノンシ外務・協力大臣は、新型コロナウイルスの中国製ワクチン供与にかかる合意書の署名を行い、21日、シノバック製新型コロナウイルスワクチン(コロナバック)20万3,000回分がコトヌ国際空港に到着した。(22日、23日、La Nation 紙)
- ・ 22日時点での新型コロナウイルスの感染確認者累計は7,100名(うち死者は90名)に達したことが公表された。(26日、Le Matinal 紙)
- ・ 29日、新型コロナウイルスのワクチン2021年世界幸福度調査の報告が公表され、ベナンは世界99位に位置づけられた(日本は56位)。(25日、L'Économiste 紙)
- ・ 接種キャンペーンが始まり、ウンパティン保健大臣が接種を受けた。(30日、La Nation 紙)

【経済】

- ・ アフリカ・ロジスティック誌によるアフリカの最も大きな港ランキングにおいて、コトヌ港は6位に位置づけられた。(4日、L'Économiste 紙)
- ・ 9日、ワダニ経済・財務大臣は、信用格付け会社ムーディーズによるベナンの評価が、「B2ポジティブ」から「B1安定的」に引き上げられたことを公表した。ベナンは新型コロナウイルスの発生以降アフリカの国で格付けが引き上げられた最初の国となる。(11日、Le Matinal 紙)
- ・ 15日、アダンビ鉱山・水利大臣は、ベナン・ニジェール間の原油パイプラインの建設にかかるウェブ上での人材採用プラットフォームを開始した。約2千名のベナン人が雇用される予定である。(16日、L'Économiste 紙)

【文化・その他】

- ・ 8日、パラク市のフランス学院(Institut français)は、創設30周年を迎え、ヴィジー駐ベナン仏大使が記念式典に出席した。(11日、La Nation 紙)
- ・ ベナン国内各地でロケをしたスペイン映画「アドウ」がスペインのゴヤ国際映画賞(Prix Goya du Cinema 2021)4部門で受賞した。(9日、Le Matinal 紙)
- ・ 25日、ロジェ・ウンベジ・コトヌ大司教は、サン・ミッシェル教会のミサにおいて、大統領選挙が平和裏に展開されるよう祈りを捧げた。(26日、La Nation 紙)

- ・ 2021年世界幸福度調査の報告が公表され、ベナンは世界99位に位置づけられた(日本は56位)。(25日、L'Économiste 紙)